

(公印省略)

29 農林試第 2054 号
平成 29 年 7 月 5 日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号について

このことについて、本県でWSMoV（スイカ灰白色斑紋ウイルス）によるモザイク病の発生を確認しましたので、病虫害発生予察特殊報第 2 号を発表し、送付します。

特殊報第 2 号

1. 病虫害名 スイカ灰白色斑紋ウイルス

2. 学 名 *Watermelon silver mottle virus* (WSMoV)

3. 発生作物 ニガウリ

4. 発生の経過と概要

平成 29 年 6 月中旬、県内のニガウリほ場において、葉に黄色・白色の退緑斑点が多発している株が多数確認された。(写真 1、2、3)

当所で RT-PCR 法によって検定したところ、本県未発生のスイカ灰白色斑紋ウイルス (WSMoV) に感染していることが確認された。

5. 病原ウイルスの性質

- (1) 病原ウイルスはトスポウイルス属に属する。主にミナミキイロアザミウマにより媒介され、稀に汁液伝染する。他種アザミウマによる本ウイルスの媒介については不明である。なお、本ウイルスによる種子伝染および土壌伝染は、確認されていない。
- (2) 国内では、沖縄県、鹿児島県（奄美大島）、神奈川県において、キュウリ、スイカ、トウガンなどのウリ科作物、ツルナ、タバコでの自然感染が確認されている。
- (3) 接種試験では、6 科 22 種で感染することが知られている。上記作物以外にウリ科ではメロン、西洋カボチャ、ヘチマなど、その他の作物では、トマト、トウガラシ、ジュウロクササゲなどでも全身感染が確認されている。

6. 病徴および被害

ニガウリでは、葉の輪紋、斑点症状が主な病徴であり、葉の萎縮症状や果実の奇形、輪紋症状などはほとんど見られない。

なお、スイカでは、葉が灰白色となり、生育が抑制され、激発すると収穫が皆無となる。また、キュウリでは、新葉の萎縮、葉の黄化えそなどの症状を示し、果実に奇形や退緑輪点を生じることもある。キュウリの葉の症状は、MYSV（キュウリ黄化えそウイルス）が感染した場合の症状に類似する。

7. 防除対策

- (1) アザミウマ類、特にミナミキイロアザミウマの防除対策を徹底する。
- (2) 施設では、アザミウマ類の侵入防止のため、開口部に防虫ネット（0.4mm目合い以下が望ましい）を張る。また、紫外線カットフィルムを使用し、侵入を抑制する。
- (3) アザミウマ類は、多発後は防除が困難になるため、発生後は直ちに薬剤防除を行う。また、成虫は絶食状態におくと数日で死亡するので、施設では栽培終了後に10日以上密閉する。なお、植物体内に水分が残っていると効果が低いので、密閉前に株元から株を切断する。
- (4) アザミウマ類は雑草にも寄生するため、ほ場内および周辺の雑草を除去する。
- (5) 発病株は二次伝染源とならないよう、発見次第抜き取り、ほ場外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分する。



写真1 ほ場における退緑斑点が生じたニガウリ（CMVとの重複感染）



写真2



写真3

退緑斑点が生じたニガウリの葉（CMVとの重複感染）

○病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「福岡県病虫害防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

福岡県病虫害防除所



最新の病虫害発生状況